




マリオについて 知っておく べきこと

 指定記事

ROTARY 3月号から

2025—26 年度RI会長、
マリオ・セザール・
マルティンス・
デ・カマルゴ氏
に会いましょう

2025 - 26 年度国際ロータリー (R I) 会長の指名委員会による面接が、エバンストンにある R I 世界本部で行われた後、マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏はホテルに戻り、待ち続けました。「これは候補者を絞るプロセスで、不安は最高潮に達しました」。連絡を受け、数ブロック先の本部に向かって歩きながら、自分が話したことを振り返りました。ようやく自分が呼び戻された理由が分かった時は、胸がいっぱいになりました。「指名委員会の人たちが立ち上がって、拍手で出迎えてくれました。会長になる者として最初の言葉を述べるように言われたのですが、出た言葉は『本当にいいんですか?』でした」

デ・カマルゴ氏のロータリー歴は数十年に及びます。1980 年にブラジルのサントアンドレ・ロータリークラブ (R C) に入会した彼は、翌年 24 歳の時にクラブの青少年交換委員となり、92 - 93 年度にクラブ会長を務めました。1999 - 2000 年度には第 4420 地区 (ブラジル、サンパウロ州の一部) のガバナー、15 - 19 年度にはロータリー財団管理委員、19 - 21 年度には R I 理事を歴任しました。また、R I ラーニングファシリテーター、各種委員会委員および委員長、タスクフォース委員として、ロータリーに貢献してきました。同じくロータリアンであるデニース・ダ・シルバ・デ・カマルゴ夫人と共に、ロータリー財団のメジャードナーおよびベネファクターです。

デ・カマルゴ氏は印刷会社である Gráfica Bandeirantes 社の元社長であり、ブラジル印刷業界のコンサルタント、印刷およびグラフィック関連の複数の業界団体の会長や理事も務めています。所属クラブが支援するサントアンドレの医療センター「Casa de Esperança (希望の家)」の理事でもあり、同センターには年間 20 万人以上の患者が訪れています。

以上は彼の略歴ですが、私たちが知りたいのは、彼の人となり。そして、彼を突き動かすものは何なのか、ということです。



マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ R I 会長エレクトと 2024 - 26 年度 R I 理事 (左から) クリスティーン・エティエンヌ氏、アラン・ヴァン・デ・ポール氏、ダニエル V. タナセ氏 (イリノイ州エバンストンの R I 世界本部にて)。

▶ ピアノをやめたことが最大の後悔

デ・カマルゴ氏は、8 ~ 21 歳までピアノを習い、そのうち 9 年間は音楽学校にも通いました。プレス製造業の研修としてドイツで働いていた時、ゲーテ・インスティトゥートでドイツ語のクラスを受講。その学校には、彼にとっての「ピアノのロールスロイス」であるスタインウェイのピアノがありました。学長に、そのピアノを弾くことを許可されましたが、研修期間の終了後、学校のために演奏することが条件でした。「それがピアノを弾いた最後になりました」。家族や仕事に時間を取られることが多くなったのが理由です。「自分のためになるものだったのに、続けられなかったことをとても後悔しています」

▶ 印刷業には「崇高な使命がある」という信念

印刷技術は中国で発展し、11 世紀には可動式活字が発明されました。その 400 年後、ゲーテンベルクがドイツで機械式印刷機を発明したことにより、ヨーロッパ全土で書籍や新聞などが大量に印刷されました。「印刷機に加え、本やアイデアが出版されることが世界を変えた」とデ・カマルゴ氏は言います。科学的知見がより普及し、「危険な思想」を封じることが難しくなったため検閲が減り、一般市民も教育資料を入手できるようになりました。

デ・カマルゴ氏の会社では、かつて年間 2,500 万 ~ 3,000 万点の印刷を行っていました。「私たちはアイデアの複製者でした。印刷業者には無知をなくす使命があります」

▶ ロータリーは、最高のリーダーシップ研修

デ・カマルゴ氏は、印刷業界で複数の役職を務めてきましたが、リーダーとしての在り方を学んだのはロータリーを通じてでした。「ロータリーは、これまで経験した中で最高のリーダーシップを学ぶ場」と話します。彼は、飛行機に乗ることと同様に人が怖がることの一つ、人前で話すことをロータリーで学んだと言います。「もし私が今でも飛行

機や人前で話すことを恐れていたなら、RI会長にはなっていなかったでしょう。ロータリーの会長がすることは、人前で話すことと飛行機に乗ることですから!」。また、耳を傾けることの大切さも学びました。「人々が自分に何を伝えようとしているのか、耳を傾けなければなりません。それは謙虚さの実践です」。そして、報酬を受けずに任務を遂行する人々を鼓舞する方法を学びました。「ボランティアを励ます場合、金銭を支払うという手段はありません。使える手段は、彼らをより良い人間にするためのインスピレーション、動機づけ、挑戦だけです」

▶ロータリーで得た、最も印象的なアドバイス

「何も求めず、何も断らない」。2015年のサンパウロ国際大会のホスト組織委員会共同委員長を務めた際、当時ロータリー財団管理委員長であったジョン・ケニー元RI会長から、この言葉を授かりました。「この一言が、私のロータリーでの歩みを方向づけました。以後、ロータリーやロータリー財団から与えられた任務は全て引き受けました。同時に、どのような結果になるかわからなくても、さまざまな役職に力をささげました。自分がいつか、このような立場になるとは想像もできませんでしたが」と言います。

▶人は彼を「会員増強のマリオ」と呼ぶ

「別に難しいことではないんです。数字を見れば、120万人で安定していると言う人もいますが、私は120万人で停滞していると言います」。安定という言葉は人を安心させ、停滞という言葉は人に行動を起こさせると、彼は考えています。

問題を解く鍵は、ある地域では会員数が増加しているのに、別の地域では減少している理由を解明することにあるそうです。「人口統計学的な要因かもしれないし、経済的あるいは年齢的な要因かもしれません。さまざまな地域や習慣が複雑に絡み合っているからこそ、とても困難であると同時に、非常に興味深い課題なのです」

デ・カマルゴ氏は、印刷業界で複数の役職を務めてきましたが、リーダーとしての在り方を学んだのはロータリーを通じてでした。

韓国で成功した方法がドイツで成功するとは限らず、ドイツで成功した方法がブラジルやアメリカで成功するとは限らないと彼は言います。「私たちは謙虚に、異なる状況に細心の注意を払わなければなりません」

▶2025 - 26 年会長メッセージ

「よいことのために手を取りあおう (Unite for Good)」

「『Unite』という言葉は非常に力強い言葉だと思います。分断された世界において、非常に力強い言葉です」

分断の種をまくのは簡単、しかし共通点を見つけるのははるかに難しいと述べたのに続いて、「私たちは常に人の欠点を探しがちですが、人の才能を見つけるべきなのです」と話します。「そこにロータリーの存在価値があります。ロータリーには、地域社会や世界中の人々とつながるための機会があります」

▶環境に焦点を当てることで

若い会員を引き寄せる

デ・カマルゴ氏以前にブラジル出身のRI会長となったのは、1990 - 91年度のパウロ V. C. コスタ氏。コスタ氏は、1992年にリオデジャネイロで開催された国連地球サミット前に彼が開始した環境プログラム「われらの天体、地球の保全 (Preserve Planet Earth)」で最もよく知られています。当時からロータリーが環境を最優先事項として取り組み続けていれば、「私たちははるかに先を行き、世界に先見性のある提案をもたらしていたでしょう」。RIの理事として、彼は環境を重点分野として承認するよう働きかけた実績があります。

2025年には、国連気候変動枠組み条約第30回締約国会議 (COP 30) がブラジルで開催される予定で、デ・カマルゴ氏は、ロータリーがこの会議

に關与できる可能性があると考えています。「ロータリーは、アマゾンの環境保護に關連するロゴやブランドを持つべきです。それを実現する絶好の機会ですから」

▶街を歩いて、街を知る

「シカゴやニューヨーク、サンパウロなど、どこへ行くときでも機会があれば、私はテニスシューズを履いて歩き始めます。色や匂い、さまざまな食べ物、そして人々を見て回るのです」。彼は、それが地元の気分を味わう最善の方法だと言います。「車移動では、周囲に溶け込むことができません。でも、歩いていると、その場所が感じられます」。彼が歩くのは街だけにとどまりません。ハイキングの愛好家だからです。「新鮮な空気を吸うことができるから、アウトドアが大好きです」と話します。

▶スーパーマリオになったことも

エバンストンのRI世界本部にあるデ・カマルゴ氏のオフィスに入ると、任天堂のゲームキャラクター・スーパーマリオのフィギュアが飾られているのが目に入ります。「これは、2019 - 20年度と一緒に理事を務めた三木明財団管理委員の発案でした。彼はすぐに私をスーパーマリオと呼び、そのあだ名が広まってきました (P19 参照)」。2024年のトロントでのロータリー研究会で、彼はスーパーマリオに扮し、元RI会長のホルガー・クナーク氏と模擬バトルを繰り広げました。これはロータリー財団の募金活動の一環で、11万5,000ドルの収益を上げました。「口ひげを逆さまに着けるといい感じになります。ロータリー財団の募金活動のためなら、何だってしますよ」

Photography by Clare Britt